

公開実用平成 2—149678

③ 日本国特許庁(JP)

① 実用新案出願公開

② 公開実用新案公報(U) 平2—149678

④ Int. Cl.⁸

B 66 B 13/30

識別記号

N
M

庁内整理番号

6862—3F
6862—3F

⑥ 公開 平成2年(1990)12月20日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑦ 考案の名称 エレベータかごの駆居

⑧ 実 願 平1—58099

⑨ 出 願 平1(1989)5月22日

⑩ 考 案 者 鈴 木 正 尚 東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 日立エレベータサ
ービス株式会社内

⑪ 考 案 者 伊 藤 考 了 東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 日立エレベータサ
ービス株式会社内

⑫ 出 願 人 日立エレベータサービ 東京都千代田区神田錦町1丁目6番地
ス株式会社

⑬ 代 理 人 弁理士 武 顕次郎



明 細 書

1. 考案の名称

エレベータかごの敷居

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 横開き式吊りドアの下端に設けられたドアシユーを案内する溝を有するとともに、適所にゴミ落とし穴を備えた底部を有するエレベータかごの敷居において、前記ゴミ落とし穴を備えた底部に開閉可能な底蓋を設けたことを特徴とするエレベータかごの敷居。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案はエレベータかごの敷居の改良に関する。

〔従来の技術〕

エレベータかごの横開き式吊りドアに対しては、従来一般にドア下端に設けられたドアシユーを案内する溝を有するとともに、適所にゴミ落とし穴を備えた底部を有する敷居が用いられている。

なお、この種装置の参考公知例としては実開昭53-88960号公報が挙げられる。

1041

〔考案が解決しようとする課題〕

ところで、敷居溝の底部に設けられる穴は、ごみ落としの目的からすれば大きいほど良いので、次第に大きくなる傾向にある。

しかし、エレベータの利用客が前記溝内に鍵等の小物用品を落とした場合は、その小物用品がエレベータ昇降路の最下階ピットに落下してしまつて、これを拾い上げるにはエレベータ運転を一時停止させて、最下階のドアを開き、ピット内に入る等の特殊技能を必要とするため、エレベータ保守会社の社員の出勤を要請しなければならない等の不便がある。

従来のエレベータからドアの敷居においてはこの転についての配慮が欠けているという問題があった。

本考案の目的は、前記の問題を解決するエレベータの敷居を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するために、横開き式吊りドアの下端に設けられたドアを案内する溝を有すると

ともに、適所にごみ落とし穴を備えた底部を有するエレベータかごの敷居において、前記ごみ落とし穴を備えた底部に開閉可能な底蓋を設けたものである。

〔作用〕

溝底部に設けた底蓋をエレベータの運行に合わせて、例えばドア開中は底蓋を閉じ、ドア閉中に底蓋を開くことにより、溝内からごみだけを排除し、ドア開中に乗客が誤って鍵等の小物用品を溝内に落としても、ごみ落とし穴から小物用品がピットに落下するのを防ぐことができる。

〔実施例〕

以下、本考案の一実施例を第1図ないし第5図により説明する。

第1図から第7図は本考案のエレベータかごの敷居を示す一実施例の説明図で、第1図はかごの側面図、第2図は第1図の正面図、第3図は第1図における底蓋を閉じた状態における第1図の要部断面図、第4図は第1図における底蓋を開いた状態における第1図の要部断面図、第5図は第2

図における底蓋を開いた状態における第2図の要部正面図である。

図において1はエレベータかご、2はかご1に設けられた上吊り横開き式ドア、2aはドア1の下端に設けられたドアシユー、3はかご1に設けられた敷居、3aはドアシユー2aをガイドする溝、3bは溝3aの底、3cは底3bに設けられたごみ落とし穴、3dはごみ落とし穴3cの底蓋、4、5、6は底蓋3dを開閉するための支点、7は支点4、5、6を連結するリンク、8は底蓋3dを開閉するための動力源となる電磁石、9は電磁石8に吸引される磁性体、10は電磁石8が通電しない時底蓋3dを閉めるための復帰バネ、11は可動する磁性体9のガイドである。

以上のような構成において、かご1が起動する信号によりごみ落とし穴3cを閉めている底蓋3dを一度開閉することにより、溝3aに落ちたごみを排除する。かご1が着床しドア2を開中に乗客が誤つて鍵等の小物用品を溝3aに落としても溝3aの底蓋3dが閉まっているため、その小

物用品がエレベータ最下階ピットに落下することはない。

第6図、第7図は本考案の他の実施例を示すもので、第3図、第4図のリンク機構を摺動機構に変え、同一符号は前記実施例と同一部分を示し、同様な効果がある。

〔考案の効果〕

本考案によれば、ごみ落とし穴を備えた底に開閉機能を持たせることにより、ドア開中に乗客が誤って鍵等の小物用品を溝に落としても、ごみ落とし穴から小物用品がピットに落下するのを防ぐことができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図～第7図は本考案のエレベータかごの敷居を示す一実施例の説明図で、第1図はかごの側面図、第2図は第1図の正面図、第3図は第1図における底蓋を閉じた状態における第1図のI-I矢視線要部断面図、第4図は第1図における底蓋を開いた状態における第1図のI-I矢視線要部断面図、第5図は第2図における底蓋を開いた状

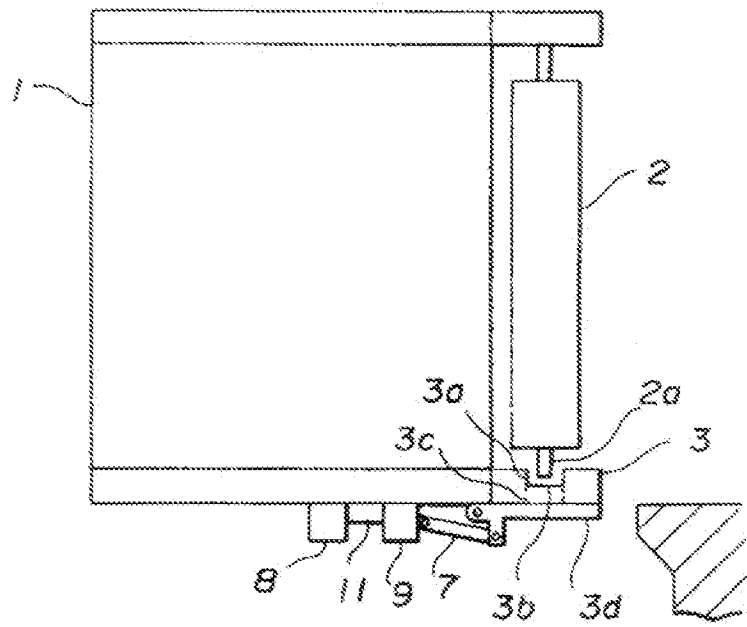
公開実用平成 2—149678

態における第2図要部正面図、第6図、第7図は
本考案の他の実施例を示すものであり、第3図、
第4図にそれぞれ相応するものである。

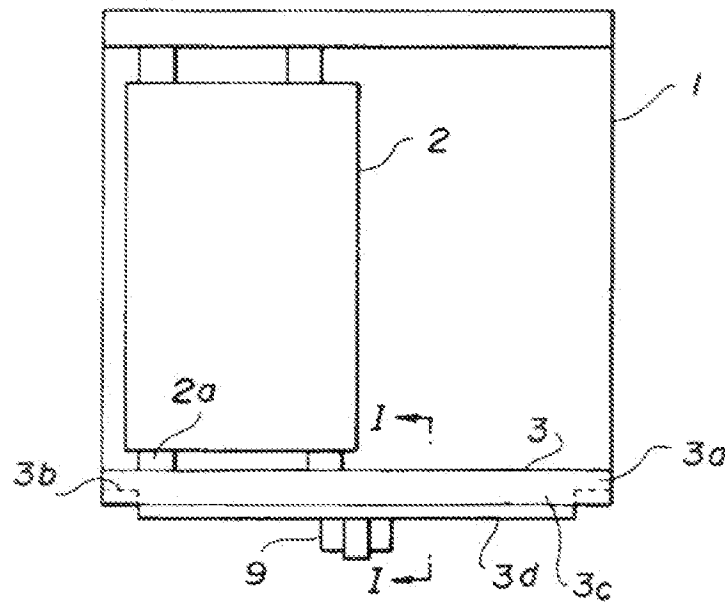
1…かご、2…ドア、2a…ドアシユー、3…
敷居、3a…溝、3b…底、3c…ごみ落とし穴、
3d…底蓋。

代理人 弁理士 武 顯次郎

第 1 図



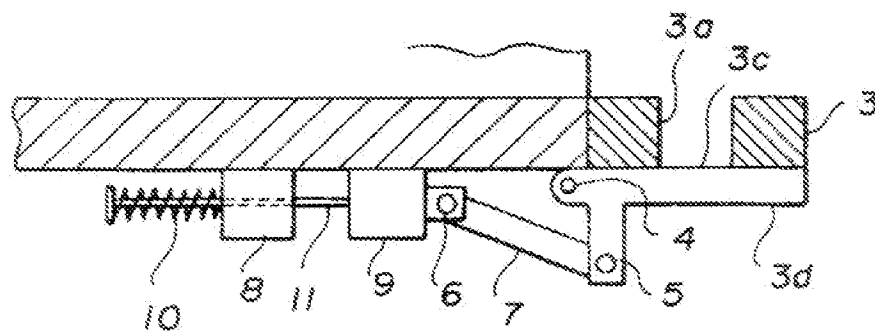
第 2 図



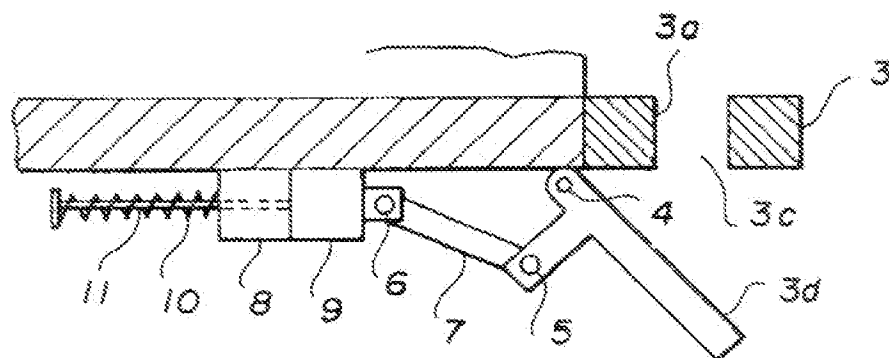
代理人 弁理士 武 顕次郎 (外 名)

1047

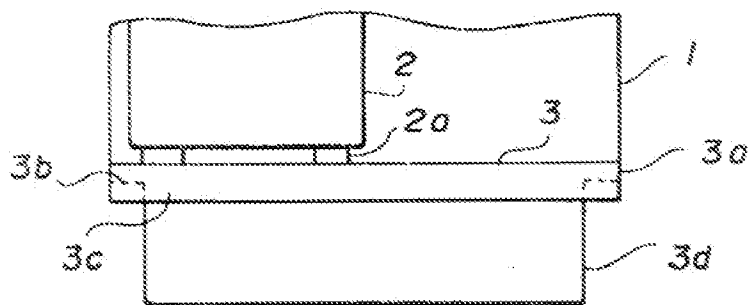
第 3 図



第 4 図



第 5 図

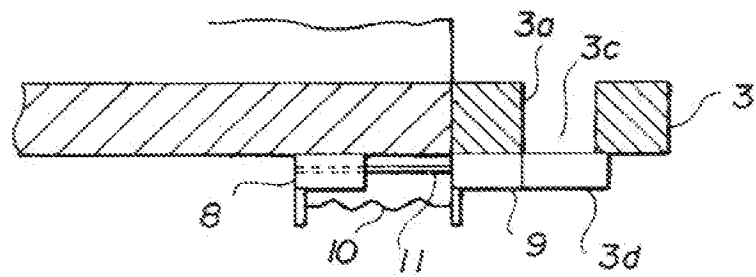


1048

代理人 弁理士 武 顕次郎 (外 名)

昭和 50 年 10 月 10 日

第 6 図



第 7 図

